



職業奉仕委員会  
委員長

## 中嶋 進治

(大阪城東RC)

### 1. 職業奉仕とは

基本的なことですが、ロータリーが、他の奉仕クラブと決定的に異なる点は、「職業奉仕」を目的としているところにあると思います。

ところで、多くの人は成人すれば当たり前のように職業につきまします。仕事は誰しもがします。それは、生きるため、金を儲けるためなのでしょう。

ロータリーの職業奉仕の考え方を確立したシェルドンは、1911年に、職業奉仕について、「He profits most who serves best.」(最もよく奉仕するもの最も多く報われる)を公表しました。これはその後、コリンズが源流となる「Service, above self.」(超我の奉仕)とともに、ロータリーの2大標語となっています。

シェルドンの職業奉仕理念は、自らが儲けるために職業についているという考えを捨てて、顧客の満足度を最優先し、自らの職業を通じて他人に奉仕するという考えで事業を営めば、その事業所は継続的に発展する。そして、そのような事業所は結果として高い職業倫理をもってはるはずだという。職業奉仕は職業倫理を高揚することではなく、職業奉仕の実践が、結果として高い職業倫理につながるのだとしています。

シェルドンが、職業奉仕の考え方を発表し

た1911年は、日本で言えば、明治43年です。100年も前のことが現在も通じるのかという意見もありますが、このような哲学的な考え方は普遍性をもつともいえます。

ロータリアンであるならば、今一度、職業奉仕のことを自分の職業において、考えることが必要なのではないのでしょうか。

### 2. 実践する職業奉仕

職業奉仕は、クラブでするものではなく、ロータリアンが、日々の自分の職業の中で実践するものであると思います。勿論クラブで、各人が職業奉仕のことを考えたり、議論する機会を設けることは必要です。しかし、やはり、職業奉仕の本籍地は、自らの職場でないかと思えます。

そこで、今年度の地区委員会の活動方針を「実践する職業奉仕」としました。

### 3. クラブの経験交流

地区の役割にも関わることですが、職業奉仕委員長会議では、各クラブで行っている職業奉仕事業を披露して頂き、他のクラブが参考になるような場としたいと思っています。そして、委員長さんがこれをクラブに持ち帰り、実践して頂ければ、地区委員会のひとつの使命を果たすことができるでしょう。